

大石良雄公（河野天籟）

嘗胆 臥薪 宝刀を 磨き

花に 戯れ 月に 酔う 志 何ぞ 豪なる

寒宵 雪を 衝いて 仇首を 斬る

義烈 富岳の 高きより 高し

嘗胆臥薪磨宝刀 戯花酔月志何豪  
寒宵衝雪斬仇首 義烈高於富岳高

作者 一八六一年四月二十四日に熊本県の細川藩御殿医・河野道仲の三男として生まれる。熊本師範学校第一回の卒業生で球磨郡多多良木小学校長を拝命後、県下の小学校長を歴任。昭和十六年第二次世界大戦勃発の年に没した。享年八十一歳。

解説 大石良雄を讃えた詩。

語釈 ※臥薪嘗胆Ⅱ目的を達するため苦労を重ねること。  
※寒宵Ⅱ寒い日の宵。※仇首Ⅱかたきの首。上野介の首。  
※義烈Ⅱ義を守る心が非常に強いこと。※富岳Ⅱ富士山。

通釈 臥薪嘗胆し、敵を欺く戯れを行い油断させ、十二月十四日に吉良邸に討ち入りし見事仇討ちを成し遂げた行為は富士山の高さよりも高き功であると言わざるを得ない。